

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッコクアカエビ

学名 *Pandalus eous*

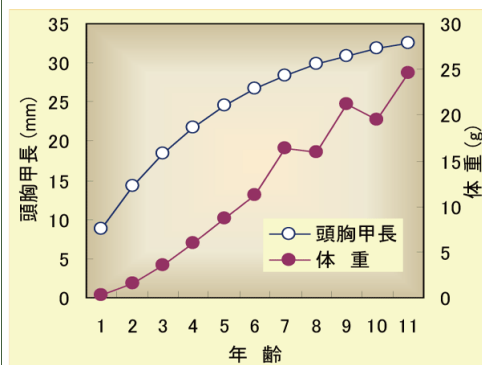
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 11年
成熟開始年齢: 雄性先熟の雌雄同体で、雌としての成熟は6歳
産卵期・産卵場: 2～4月で隔年産卵、成長に伴い400～600mの深みへ移動した後、性転換と交尾・産卵を行う、産卵を終えた抱卵個体は次第に浅い方へ移動し、主に水深200～300mで幼生の孵出を行う
索餌期・索餌場: 主分布域と同海域
食性: 微小な甲殻類、貝類、多毛類およびデトリティス等
捕食者: マダラ、スケトウダラ等の底魚類

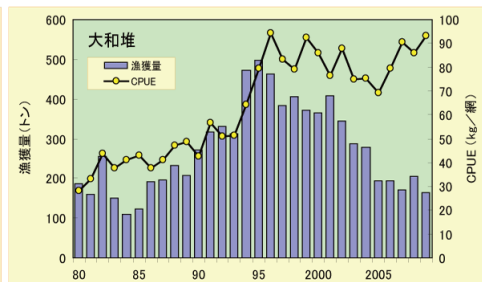
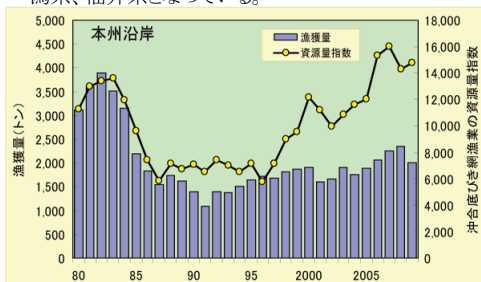


漁業の特徴

鳥取県～北海道沿岸の水深200～950mの深海底に生息し、分布の中心は200～550mにある。沖合底びき網、小型底びき網、かご網によって漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は1982年の4,155トンピークに減少傾向にあったが、1995年以降は、2007～2008年の2,500トン前後を除くと、概ね約2,000～2,200トン台で安定して推移し、2009年は2,162トンであった。主要な漁場は能登～若狭湾を中心とする日本海中部海域と大和堆である。県別では、沿岸に主要な漁場を持つ石川県の漁獲量が最も多く、次いで新潟県、福井県となっている。

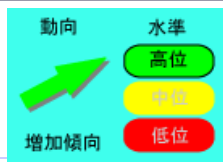


資源評価法

漁獲の50～60%を占める沖合底びき網漁業の資源量指数(本州沿岸海域)およびCPUE(大和堆)を資源量指標値とした。また、その他の情報として、小型底びき網漁業、えび籠漁業によるCPUE、能登半島以西の本州沿岸海域で行った調査船による採集結果の経年変化を考慮した。

資源状態

本州沿岸域における沖合底びき網の資源量指数は2002年以降増加傾向にあり、比較できるデータが入手可能な1980年以降において、もっとも高い水準にある。石川県、新潟県の主漁区におけるCPUEは高位安定、石川県のえび籠漁業のCPUEは横ばい、調査船調査結果から算出した2010年の資源量指標値は増加傾向にある。一方、沖合の大和堆海域は2003年以降、累積努力量とCPUEの関係、CPUEともに安定しており、資源は良好に維持されていると推定される。したがって、資源水準は高位、動向は増加傾向にあると判断される。



管理方策

本州沿岸については資源量指数の予測値に応じた漁獲をしても現在の資源水準を維持できると判断し、2002年以降の資源量指数の増加傾向から2011年の資源量指数の予測値を求め、この値を2002年以降の資源量指数と本州沿岸の全漁獲量との関係にあてはめてABClimitを算出した。大和堆は2003年以降の最高漁獲努力量(3,825網)を投入しても資源は十分維持されると判断し、2003年から直近年までの平均CPUEを乗じてABCtargetとした。これらを合算して系群全体のABClimitとした。ABCtargetは、これらの合計漁獲量に0.9を乗じて算定した。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,500トン	1.1本州沿岸C2009 1.9大和堆C2009	—	—
ABCtarget	2,300トン	0.9・1.1本州沿岸C2009 0.9・1.9大和堆C2009	—	—

資源評価のまとめ

- 沖合底びき網漁業の資源量指数は依然として高い水準にあり、資源状態は高位、動向は増加傾向と判断される
- 小型底びき網、えび籠漁業、調査船調査結果からも本州沿岸の資源は高位で増加または横ばいと判断された
- 本種を主対象とする大和堆漁場は、中位～高位の水準にあり、2003年以降横ばいと判断した

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲水準が大幅に増加しなければ、資源水準は良好に維持される
- 大和堆資源で算出された、現状よりも高いABCは、夏季の底びき網漁業のみの操業という前提である
- 石川県沖合の採集調査結果から、2011年以降卓越年級群の小型個体が漁獲加入してくるため、小型個体の保護が重要である

執筆者: 養松郁子

資源評価は毎年更新されます。